

「現代社会における〈毒〉の重要性」
2018年度事業
研究代表者：吉岡洋
主催：京都大学こころの未来研究センター



公開講座

「芸術と〈毒〉」

日時：2018年9月16日（日）11:00-17:30

場所：稲盛財団記念館3階大会議室 / 対象：学生・研究者

申込：不要 / 問合せ：yoshioka.hiroshi.7s@kyoto-u.ac.jp

〈毒〉とは、避けるべきものでしょうか？ 〈薬〉が用い方しだいで〈毒〉にもなるように、〈毒〉も本当は私たちの世界や人生にとって重要な役割を果たしているのではないのでしょうか？ この公開講座ではこのテーマについて、アートを通して考えてゆきます。

プログラム

- | | |
|-------------|--|
| 11:00-11:15 | 挨拶・趣旨説明（吉岡洋） |
| 11:15-12:15 | 「芸術と〈毒〉という問題系」（吉岡洋） |
| 12:15-13:30 | 休憩 |
| 13:30-14:30 | 「毒から抗鬱剤へー新印象派、ライリー、毒と悪意のない世界へ？」
（加藤有希子） |
| 14:30-14:40 | Skype 等セットアップ |
| 14:40-15:40 | 「不協的調和ーアートのファルマコン的アプローチの模索」
（大久保美紀） |
| 15:40-16:00 | 休憩 |
| 16:00-17:00 | 「絵画の毒：絵の具の物質性について」（小澤京子） |
| 17:00-17:30 | 全体討論 |

●吉岡洋（よしおかひろし 京都大学こころの未来研究センター特定教授）

専門は美学・芸術学、情報文化論。著書に『情報と生命』（新曜社 1993）、『〈思想〉の現在形』（講談社 1997）等。批評誌『ダイアテキスト』編集長、「京都ビエンナーレ 2003」「岐阜おおがきビエンナーレ 2006」総合ディレクター。文化庁世界メディア芸術会議（2011-2013）座長。

●加藤有希子（かとうゆきこ 埼玉大学基盤教育研究センター准教授）

専門は近現代美術史、表象文化論。2012年より現職。単著に『新印象派のプラグマティズム』（三元社 2012）、『カラーセラピーと高度消費社会の信仰』（サンガ 2015）、共著にDIC川村記念美術館『ゆらぎ ブリジット・ライリーの絵画』（2018）などがある。

●大久保美紀（おおくぼみき パリ第8大学造形芸術学部講師）

専門は美学・身体論・自己表象論。単著に Exposition de soi à l'époque mobile（『可動性と流動性の時代の自己表象』、Connaissances et Savoirs、2017年）、Arts Awareness（『芸術的感化』LAP、2018年）。企画展覧会に『ファルマコンー医療とエコロジーの芸術的感化』（京都・大阪、2017年）。

●小澤京子（おざわきょうこ 和洋女子大学人文学部・准教授）

専門は表象文化論・芸術史。単著に『ユートピア都市の書法』（法政大学出版局、2017年）、『都市の解剖学』（ありな書房、2011年）、分担執筆に渋谷哲也編『ストロープ=ユイレ シネマの絶対に向けて』（森話社、2018年）など。